

【静市学習情報センター】

令和4年4月に市原野小学校と静原小学校との統合を機に新しい学びのスペースを設置しました。



静市学習情報センターコンセプト



【おすすめ図書コーナーを設置しています】

静市学習情報センター入口には、季節に応じた掲示や書籍の紹介と新聞の配架を行っています

4月おすすめ本の紹介

6月おすすめ本は、サミットを取り上げた新聞記事と連動させて紹介



7月おすすめ本の紹介



9月おすすめ本の紹介



「ぐりとぐら」60周年にかかる紹介



高学年児童が、図書紹介カードをつくりました(学級内で展示。その後、静市学習情報センターで展示)



学校図書館司書によるオリエンテーションを全学年で行いました



司書らによる読み聞かせに取り組んでいます

図書主任による読み聞かせ(R4)

司書による読み聞かせ(R5)

3年生が1年生に読み聞かせ



年2回の読書週間の取組では、子どもたちの様々な工夫をしています
図書委員会による図書クイズ大会と、直後の貸し出し状況の様子です



教員が他学年の教室に赴き、ブックトークを行う機会をもちました



【学級文庫の充実をはかっています】

教科書関連本の常駐配架・学級文庫の充実

2年「お手紙」関連本を学級文庫に常駐配架



教科書関連本を学級文庫に常駐配架



1年教室横空き教室に、絵本図書館を整備中



1年教室には、おすすめ本の紹介



【多様な学びの場として活用しています】

検索機能を活用 R5.10～「カーリル」を活用

端末と図書を併用して学習



山梨県の桃の生産農家とオンラインで学習(5年)



読書感想文の書き方指導(4年)



区役所職員による防災学習(6年)



「いつでも開館している学校図書館」「いつでも誰かがいる図書館」を実現し、児童にとっての「心の居場所」となる学校図書館の運営を目指してきました。

始業前、中間休み、昼休み、放課後に自由に入出りでき、読書や調べ学習、新聞に向き合うスペースを確保しています



OHPや学校だよりで情報発信

市原野 だより

いちはらの

わが市原野

市原 3年9月24日
10月号

京都市立市原野小学校
校長 西田 隆

京都市立市原野小学校 106
TEL: 075-741-2460
FAX: 075-741-2195
市原野小学校

「共読のススメ」 子どもが読んでいる本を大人も読んでみましょう。

子どもたちは、読書が大好きです。始業前の朝読書の時間には、集中して本に耽り込む姿が見られます。読む本の種類も、1学期に比べるとずいぶん変わってきたなあと思います。特に高学年では、文庫本サイズの本を読んでいる児童が格段に増えてきました。積み重ねの大切さを改めて感じています。

これから人格が形成されていく子どもにとって、読書が果たす役割はかけがえのないものであると言えるでしょう。読書に取り組むことで「想像力が豊かになる」「読解力や語彙力が鍛えられる」「コミュニケーションスキルが高くなる」など、いくつもの観点でその良さが語られています。特に、まだ見ぬ人々や、出来事や、様々な【考え方】にふれることができることは、大きな魅力の一つです。また、読書を通して、静かに物事を考える時間を得ることは、改めて自分自身の生き方を問い直す貴重な機会にもなることでしょう。

子どもたちがもっと読書好きになるためには、私たち大人も「本が好き」という姿勢を見せることが大切です。【共に読書を楽しむこと】が一番の近道だと考えます。数年前には小学校6年生児童を対象にした生活意識調査の結果を受けて、「子どもが読んでいる本を大人が積極的に読むこと」についての提言がありました。家庭内で大人と子どもが、本の貸し借りのできるような関係を築き上げたり、子どもと一緒に読書をして、共に楽しんだり悲しんだりする大人の存在は、子どもの読書に対する動機付けを大いに高めることができるでしょう。家庭で子どもの読書習慣の定着を図ることは、その家庭の読書文化を創ることににもなります。

当時の生活意識調査の結果を受けて4つの提言が示されています。以下に掲載する「共読のススメ」は、その一つです。低学年では「読み聞かせ」を中心に、そして、中・高学年では「子どもが読んでいる本を大人も読む」とは、すぐにできそうな取組だと思います。ぜひ、ご家庭でも話題にしてください。

共読のススメ

◎家族で感想を語り合い、共に心を通わせることのできる世界をつくりましょう。

- ・大人が子どもにおすすめの本を紹介できる「読書アドバイザー」になれるといいですね。
- ◎子どもが読んでいる本を、いっしょに読んでみましょう。
- ・低学年のうちは「読み聞かせ」から、中学年になったら、子どもから本を借りるのもいいですね。
- ・家庭で大人と子どもで本の貸し借りができるようになるといいですね。

市原野 だより

いちはらの

わが市原野

市原 5年9月28日
10月号

京都市立市原野小学校
校長 西田 隆

京都市立市原野小学校 106
TEL: 075-741-2460
FAX: 075-741-2195
市原野小学校
ホームページ
ご確認ください

読書の秋

朝夕の少し冷えた空気が心地よい季節となりました。いよいよ秋本番を迎えます。

この季節は集中して取り組むことに適した時期と言われ、「スポーツの秋」「芸術の秋」などと銘打って様々な取組が進められます。その取組の中で、読書に一番適した季節であるということから由来する「読書の秋」があります。

中国の唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に「燈火（とうか）蛩（しむ）むべし」という一節があります。「秋になると涼しさが気持ちよく感じられる。そんな秋の夜更けはあかりをつけて本を読むのに適した季節である。」ということで、韓愈が息子に対して勉強を勧めた言葉として知られており、この言葉が「読書の秋」という言葉の由来とされています。

読書は、豊かな心と確かな学力を育むための大切な営みでもあります。子どもが言葉遊び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものに、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かすことのできないものともいえるでしょう。

令和4年に市原野小学校と市原野小学校が統合した際に、図書館の蔵書を移設し、新たに読書・学習・情報・交流センターの機能をもつ「静市学習情報センター」を設置しました。学校図書館司書の先生が毎週来校し、整備をすすめたり、本の紹介をしたりするなど、魅力ある学校図書館作りを進めています。毎日、たくさん子どもたちが本に親しんでいる様子に目を留めているところです。

静市学習情報センター

読書の秋、心を豊かにする読書センター

学習センター

情報センター

交流センター

子どもたちにとって読書は、想像力や考える習慣を身につけるよい機会です。日頃から本を身近に置き、時間を見つけて読書をする習慣を身につけてほしいと願っています。また、「読書の秋」は子どもたちだけのものではありません。忙しい毎日の中で、ちょっとした時間をつくり、子どもも大人も「読書の秋」を楽しめることができればと思います。

ぐりとぐらシリーズ

ほくらのなまえば ぐりとぐら このよでいぢばんずきなのば
おりようりすること たべること ぐりとぐら ぐりとぐら

「ぐりとぐら」の作者の絵本がトレードマークの、ふたごの野ねずみ「ぐりとぐら」と「ぐら」。中川李枝子さんと山脇（大村）百合子さんの姉妹による作品は、今年で誕生から60周年を迎えます。静市学習情報センターの入口に特設コーナーをつくりました。

読書の秋 先月号の「共読のススメ」に続き、3つのススメをご紹介します。

「読みかけの本のススメ」〜いつも身近なところに本を置いておきましょう〜

- ◎読みかけの本をいつも身近な所に持っておきましょう。
待ち時間などに本と親しめるといいですね。
- ◎読んだ本を本棚にためていきましょう。家庭で本棚ができるといいですね。

「出会いのススメ」〜本と出会うきっかけを工夫しましょう〜

- ◎いっしょに書店や図書館に行つて本を選びましょう。いろいろな種類の本を選べるといいですね。
映画やドラマになった本をきっかけにして選ぶこともできますね。
- ◎記念日に本のプレゼントをしましょう。
誕生日、進級・進学の日、季節の行事にあわせて、思いの1冊ができるといいですね。

「読書タイムのススメ」〜家族全員で本を楽しむ時間を作りましょう〜

- ◎家庭で「夕食後の30分」「寝る前の30分」のように毎日読む時刻・時間を決めてみましょう。テレビを消して、みんなで静かな時間を楽しむといいですね。
- ◎平日・休日ともに読書タイムを作りましょう。休日に家族で本の紹介をし合えるといいですね。



<たとえば> 本に親しむ～物語本を中心に～

1年	2年	3年	4年	5年	6年
大判(絵本)		B6版	伝記	シリーズもの	文庫本サイズへ

「アフターゾロリ」がポイント



Book covers shown include: はらぺこあおむし, ぶんぶんぶん, 恐竜の谷の大冒険, 若おかみは小学生!, バスワードは..., 獣の奉者, なぞのたから島, わかっちゃん, 日本のむかしばなし, 世界のむかしばなし, ファーブル昆虫記, モモ, ハリー・ポッターと賢者の石.

「共読のススメ」～子どもが読んでいる本を大人も読んでみましょう～

- ◎家族で感想を語り合い、共に心を通わすことのできる世界をつくりましょう。
大人が子どもにおすすめの本を紹介できる「読書アドバイザー」になれるといいですね。
- ◎子どもが読んでいる本を、いっしょに読んでみましょう。
低学年のうちは「読み聞かせ」から、中学年になったら、子どもから本を借りるのもいいですね。
家庭で大人と子どもで本の貸し借りができるようになるといいですね。

おうちの方へ



「読みかけ本のススメ」～いつも身近なところに本を置いておきましょう～

- ◎読みかけの本をいつも身近な所に持っておきましょう。待ち時間などに本と親しめるといいですね。
- ◎読んだ本を本棚にためていきましょう。家庭で本棚ができるといいですね。

平成16年度に実施された生活意識調査の結果をもとに作成された「読書好きの子ども」を育てるための提言です。参考まで。

「出会いのススメ」～本と出会うきっかけを工夫しましょう～

- ◎いっしょに書店や図書館に行って本を選びましょう。
いろいろな種類の本を選べるといいですね。映画やドラマになった本をきっかけにして選ぶこともできますね。
- ◎記念日に本のプレゼントをしましょう。
誕生日、進級・進学の日、季節の行事にあわせて、思い出の1冊ができるといいですね。



「読書タイムのススメ」～家族全員で本を楽しむ時間を作りましょう～

- ◎家庭で「夕食後の30分」「寝る前の30分」のように毎日読む時刻・時間を決めてみましょう。
テレビを消して、みんなで静かな時間を楽しむといいですね。
- ◎平日・休日ともに読書タイムを作りましょう。
休日に家族で本の紹介をし合うことができるといいですね。